

報道関係 各位

平成18年11月27日
社団法人日本イベント産業振興協会

「2006日本イベント大賞」受賞者決定！

社団法人日本イベント産業振興協会（経済産業省所管、中村雅哉会長、東京都千代田区）は、「第2回日本イベント大賞」を実施し、日本たばこ産業株式会社が一企業のキャンペーンイベントを超えて幅広い層を巻き込んで、新しいタイプの社会貢献活動を実現した『ひろえば街が好きになる運動（ひろえば街が好きになる運動事務局主催）』を2006年の大賞に選出しました。

このイベントの表彰制度は、イベントの新しい市場の創出と優れた人材の発掘を目的に「新しいイベントやビジネスのインキュベーター」となることを理念として行なわれ、総合的なイベント表彰制度としては日本で唯一のものであります。

今年度は、全国の優れたイベントを表彰する「日本イベント大賞」に加えて、人材・団体・企業を表彰する「制作賞」を新設し、地域イベントのあるべき姿を示した石川県の『白峰・桑島地区雪だるままつり』他2イベントを選出しました。

■「2006日本イベント大賞」大賞部門

【大賞】

- イベント名称 ひろえば街が好きになる運動
- 受賞者 ひろえば街が好きになる運動 事務局
- イベント概要 日本たばこ産業株式会社は「ひろえば街が好きになる運動」という清掃活動を全国で行っています。参加いただいた方々の多くが「楽しい」「有意義」「これからは捨てない」と答えていただけるのが、この運動の何よりの成果です。「ひろうという体験を通じて捨てない気持ちを育てたい」。そんな願いから生まれたこの運動は、これからも続きます。
- 受賞理由 一企業のキャンペーンイベントの域を出て、自治体、NPO、学校など周囲を巻き込む“協働イベント”に広がっている。企業と市民や地域との共感醸成型の新しいタイプの社会貢献活動を実現している。

■「2006 日本イベント大賞」制作賞部門（制作賞は特に順位を設けていません）

- 受賞者 北野 滋（雪だるままつり実行委員会）
 イベント名称 白峰・桑島地区の雪だるままつり
 イベント概要 雪だるま実行委員会は雪だるままつりの企画立案、運営を行う団体であり、地域住民の有志によって組織されているが、第1回以来、その形態を続けている。平成18年は2月6日に桑島雪だるままつり、2月10日に白峰雪だるままつりが開催され、約2,5000個の雪だるまが誕生し、1万人を越える来訪客で賑わいをみせた。
 選考理由 「他人のためでなく自分たちのためにするイベント」というコンセプトのもとに、地域イベントの有るべき姿を確立した。即ち、発案者の地道な説得活動、地域全員参加と17回目という継続性。雪だるまという誰もが参加できるシンプルなイベントで、雪という重荷をプラスに変え、有力な観光資源にまで高めたことは賞賛に値する。

- 受賞者 青木崇徳（いわき市 DIAMOND プロジェクト）
 イベント名称 いわき DIAMOND プロジェクト 市民アーティスト養成講座
 イベント概要 ‘05年7月7日、市内の若者が集い「いわき DIAMOND プロジェクト」を結成。「市民アーティスト養成講座」を企画。9月28日、講座告知のため上智大ゴスペルサークルのコンサートを開催。10月開講。受講生160名。‘06年3月5日、卒業LIVE《YAZZO!》を開催。‘06年9月、2ndステージ始動。
 選考理由 フツターの市民を磨いてダイヤにする。このイベントにより市民の意識が変わり市民の自信につながった事は、イベントのパワーを証明する好例である。新ホール建設をきっかけとして、全ての世代の市民が交流し創り出す新しい市民活動は、既存のホールの活性化の方向性を示している。

- 受賞者 松浦真司（日本たまごかけごはん楽会）
 イベント名称 第1回 日本たまごかけごはんシンポジウム
 イベント概要 日本人特有のメニューと言える程の「たまごかけごはん」に着目し、日本人にとってかけがえがない、「米・卵・醤油」を見直すことによって、日本人であることの喜びを改めて感じる事が出来るイベントである。
 選考理由 米、醤油、たまごという地域資源にこだわり、大きな反響を呼ぶ楽しいイベントに仕上げた。たまごかけごはん専用醤油の開発、販売増など、地域経済の活性化にも貢献し、過疎の小さな村からでも日本中に情報発信できるというイベントの力・楽しさを証明した

この件に関するお問い合わせは、下記担当者までお願いいたします。

〒102-0082
 東京都千代田区一番町13 一番町法眼坂ビル3F
 社団法人 日本イベント産業振興協会
 総務本部 広報担当 高澤 守
 tel 03-3238-7821

報道資料

■社団法人 日本イベント産業振興協会について

社団法人日本イベント産業振興協会(所管：経済産業省 会長：中村雅哉 東京都千代田区)は、平成元年に通商産業省(当時)の外郭団体として設立され、イベントの企画・制作・主催まで、イベントの幅広い分野にわたる企業や団体、教育機関で構成される日本で唯一のイベントに関するユニークな社団法人です。

近年イベントは、優れたコミュニケーション手段として、また体験や感動による人々の意識変化を生む契機として、また、新しいビジネスモデルや技術の実験の場として、改めてその機能と役割が見直されています。イベントをより効果的に役立てるために、当協会ではイベントやイベント産業に関する調査研究、各種のイベント情報の提供、人材育成、内外関係団体との交流、支援などの事業活動を行っています。

■日本イベント大賞とは

①設立の経緯と理念

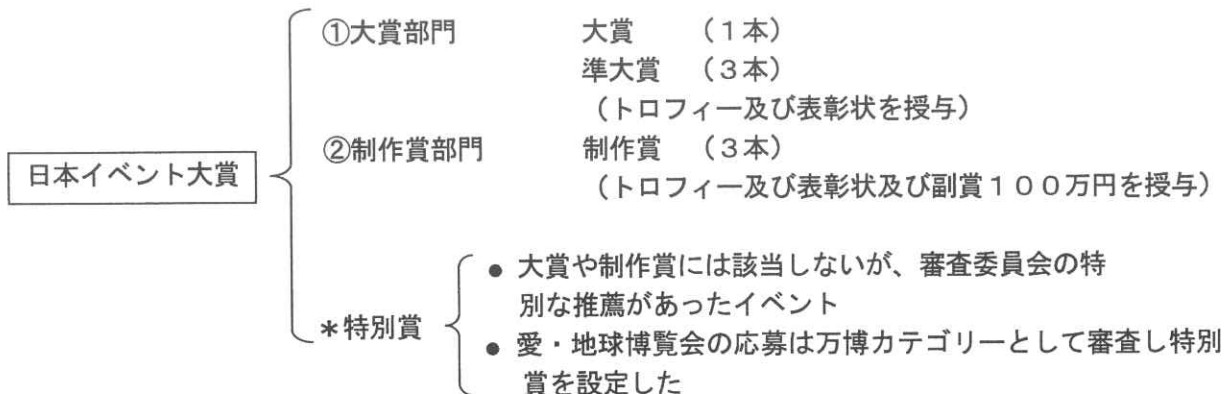
社団法人日本イベント産業振興協会では、平成16年に協会の15周年記念事業として日本イベント大賞を実施いたしました。18年度は第二回を開催し以降この事業を継続してゆきます。

日本イベント大賞は、日本で唯一の総合的なイベントの表彰制度です。企業の販促活動や地域の活性化に於けるイベントの役割と可能性を広げ、優れたイベントとイベントの制作者を発掘、表彰し、「新しいイベントやビジネスモデルのインキュベーター」となることを基本的な理念としています。

②賞の構成

日本イベント大賞には『大賞部門』と『制作賞部門』の2つの部門があります。大賞部門は、イベントやビジネスの新しいモデルとなった『イベント』を表彰し、制作賞部門は、上記のような新しいイベントの企画・制作・実施に貢献した『個人や企業や団体』を表彰します。

それぞれトロフィーと表彰状が贈られますが、制作賞部門には副賞として100万が贈られます。これは、当協会の会員である株式会社テー・オー・ダブリューが創業30周年を迎えるにあたり業界へ感謝の意を表し、業界の発展を支援するという趣旨により贈られるものです。



■日本イベント大賞の全体経過について

●応募及び審査について

①応募数

第2回日本イベント大賞は2005年9月から2006年8月末までに実施されたイベントを対象とし、2006年4月から応募を開始、9月末の締め切りまでに大賞部門77件、制作賞部門で34件、合計111件の応募がありました。

②審査

第1次審査で111件のイベントが76のイベントに絞られ、さらに第2次審査で20のイベントと6の特別賞に絞られ最終審査委員会に送られました。

最終審査委員会は、制作賞部門が11月16日、大賞部門が11月22日に、財団法人日本カメラ財団(千代田区一番町)で行われました。審査は応募者によるプレゼンテーションによっておこなわれ、厳正な審査の結果以下のように各賞が決定しました。

③表彰式

表彰式は2007年1月30日(火曜日)にロイヤルパークホテル(東京)にて開催されます。

■2006日本イベント大賞の結果

最終審査にノミネートされた10作品は、大規模な企業イベントや市民参加を主体にしたイベント、NPOによるイベントなど多岐にわたった。本賞の理念である「新しいイベントやビジネスのモデルを創造したイベント」を評価のポイントにディスカッションを重ねた。各審査員による様々な意見交換が行われたが、イベントの持つ社会的な意味、これからの発展性も視野に大賞および準大賞が決定した。

「2006日本イベント大賞」 大賞部門 大賞

- イベント名称 ひろえば街が好きになる運動
 受賞者 ひろえば街が好きになる運動事務局
 イベント概要 JTは「ひろえば街が好きになる運動」という清掃活動を全国で行っています。参加いただいた方々の多くが「楽しい」「有意義」「これからは捨てない」と答えていただけなのが、この運動の何よりの成果です。「ひろうという体験を通じて捨てない気持ちを育てたい」。そんな願いから生まれたこの運動は、これからも続きます。
 受賞理由 一企業のキャンペーンイベントの域を出て、自治体、NPO、学校など周囲を巻き込む“協働イベント”に広がっている。企業と市民や地域との共感醸成型の新しいタイプの社会貢献活動を実現している

「2006日本イベント大賞」 大賞部門 準大賞（準大賞は特に順位を設けていません）

- イベント名称 COOL ASIA 2006
 受賞者 株式会社博報堂
 イベント概要 地球温暖化防止国民運動「チーム・マイナス6%」の一環である夏の軽装運動「クールビズ」導入2年目。情報戦略の核として、ファッションショー型の情報発信イベントを計画した。結果、29ブランドと閣僚・大使をはじめ話題の人々の参加協力を得ることが出来、国内外ともに話題と行動を生む過去に例を見ないイベントとなった。
 受賞理由 ファッションショウをうまく拡げて省エネの新しい流れを作り「クールビズ」の定着に大いに貢献した。地域も、日本にとどまらずアジアにまで拡大し、ファッションショウというイベントで出来るコミュニケーションの限界を押し拡げた。
- イベント名称 国際識字年記念 三菱 IMPRESSION-GALLERY アジア子供アート・フェスティバル
 受賞者 三菱広報委員会事務局
 イベント概要 「アジア子供アート・フェスティバル」は、アジア24の国と地域の子供たちから「絵日記」を募集し、その絵日記を通して、国際交流・アジアの相互理解を図ることを目的として、開催いたしました。また、入選作品の一部で識字教材を制作し、参加国・地域の識字教育に活用しています。
 受賞理由 イベントは「イベントの視点が社会を見据えているかどうか」といったことも大事なポイントの一つであり、「日本が」アジアや世界や子どもたちにも出来るイベントモデルの決定版の一つとなっている。普段、字や絵を書かない子どもが参加していることが非常に意義がある。
- イベント名称 アースデイ東京2006
 受賞者 アースデイ東京実行委員会
 イベント概要 メイン会場には10万人が参加する、日本最大級の市民による環境イベント、アースデイ東京。「地球のことを考えて行動する日、アースデイ」というシングルイシューのもと、個人・NPO/NGO・企業・団体・グループが、環境・健康・平和などをテーマにした多彩な企画を実施しました。
 受賞理由 「趣旨に賛同した者が集まり、1年にわたりマネジメント会議への参加の義務付け、赤字の共有など組織と資金運営のモデルも新しい。これからの市民のイベントの方向性を示唆している。

「2006日本イベント大賞」 制作賞部門 （制作賞は特に順位を設けていません）

最終審査にノミネートされたイベントは、地域活性化イベントが8割となり、地域資源の活用、住民の参加、アイデア具現化のプロセスなど、単純明快な分かりやすさや地域を巻き込むエネルギーなどが評価のポイントとなった。

下記3作品は満場一致で決定され、また、「観桜期の吉野山における交通需要マネジメント」は特別賞とした。

- **受賞者** 北野 滋 （雪だるままつり実行委員会）

イベント名称 白峰・桑島地区の雪だるままつり

イベント概要 雪だるま実行委員会は雪だるままつりの企画立案、運営を行う団体であり、地域住民の有志によって組織されているが、第1回以来、その形態を続けている。平成18年は2月6日に桑島雪だるままつり、2月10日に白峰雪だるままつりが開催され、約2,5000個の雪だるまが誕生し、1万人を越える来訪客で賑わいをみせた。

選考理由 「他人のためでなく自分たちのためにするイベント」というコンセプトのもとに、地域イベントの有るべき姿を確立した。即ち、発案者の地道な説得活動、地域全員参加と継続性。雪だるまという誰もが参加できるシンプルなイベントで、雪という重荷をプラスに変え、有力な観光資源にまで高めたことは賞賛に値する。

- **受賞者** 青木崇徳 （いわき DIAMOND プロジェクト）

イベント名称 いわき DIAMOND プロジェクト市民アーティスト養成講座

イベント概要 '05年7月7日、市内の若者が集い「いわき DIAMOND プロジェクト」を結成。「市民アーティスト養成講座」を企画。9月28日、講座告知のため上智大ゴスペルサークルのコンサートを開催。10月開講。受講生160名。'06年3月5日、卒業LIVE《YAZZO!》を開催。'06年9月、2ndステージ始動。

選考理由 フツターの市民を磨いてダイヤにする。このイベントにより市民の意識が変わり市民の自信につながった事は、イベントのパワーを証明する好例である。新ホール建設をきっかけとして、全ての世代の市民が交流し創り出す新しい市民活動は、既存のホールの活性化の方向性を示している。

- **受賞者** 松浦真司 （日本たまごかけごはん楽会）

イベント名称 第1回日本たまごかけごはんシンポジウム

イベント概要 日本人特有のメニューと言える程の「たまごかけごはん」に着目し、日本人にとってかけがえがない、「米・卵・醤油」を見直すことによって、日本人であることの喜びを改めて感じる事が出来る

選考理由 米、醤油、たまごという地域資源にこだわり、シンプルな日本人の心のメニューを活用して大きな反響を呼ぶ楽しいイベントに仕上げた。たまごかけごはん専用醤油の開発、販売増など、地域経済の活性化にも貢献し、過疎の小さな村からでも日本中に情報発信できるというイベントの力・楽しさを証明した。

「2006日本イベント大賞」 特別賞

(特別賞は特に順位を設けていません)

- **イベント名称** 2005年スペシャルリビックス日本・神奈川 東海道リレー縦走大会
受賞者 特定非営利活動法人 スペシャルリビックス日本・神奈川
イベント概要 本イベントは知的障害のある人達のスポーツを通じた自立と社会参加を支援するボランティア活動であり、知的障害のあるアスリート達が小田原から横浜アカレンガまで継走リレーします。
 神奈川県警、海上自衛隊をはじめ報道各社、一般各社の多くの方が協力、協賛いたします。

選考理由 有名な箱根駅伝の小田原から横浜までを知的障害者と健常者が一緒に走り、喜びを共にするリレー縦走大会で、これからの共生社会におけるイベントの方向性を示している。
- **イベント名称** 2005年日本国際博覧会 国際赤十字・赤新月パビリオン
受賞者 日本赤十字社/株式会社丹青社
イベント概要 昨年9月に閉幕した愛・地球博。その中で“感動を呼ぶパビリオン”として異色を放った国際赤十字・赤新月パビリオンは、現場運営をすべてボランティアによって行っていた小さなパビリオンでしたが、世界中様々な紛争・災害現場で活動する赤十字の紹介を通じて「人類の叡智」を考えさせるパビリオンとして大きな反響を呼びました。

選考理由 過剰な演出を排したシンプルで強力なメッセージ、来場者の感動の輪を広げる「心の掲示板」など、赤十字の活動を感動的に伝える構成と演出は、従来の万博のパビリオンにない新たな感動を創り出した。
- **イベント名称** 2005年日本国際博覧会 トヨタグループ館
受賞者 株式会社電通テック
イベント概要 愛・地球博において、トヨタグループの目指す21世紀の価値あるモビリティ社会の実現に向けた取り組みの姿勢をアピールすることを目的とした民間パビリオン。未来コンセプトビークル「i-unit(アイユニット)」や、トヨタ・パートナーロボットによる感動・興奮のパフォーマンス・ショーを展開。

選考理由 トヨタパートナーロボットと未来のコンセプトヴィークル「i-unit」と人間の織り成すパフォーマンスショーは未来型エンターテイメントとして観客を魅了した。それを通じて、地球と共生する21世紀のモビリティの未来像を感動的に演出し提示した。
- **イベント名称** 2005年日本国際博覧会 地球市民村
受賞者 株式会社博報堂
イベント概要 愛・地球博「地球市民村」は、万博史上初の市民・NPO/NGO参加事業の柱のひとつ。持続可能な社会に向けて活動している国内外の30団体が、展示やプログラムを展開。参加体験型の手法やくつろげる場が好評で人気を博した。自分の身近なところから何かをしたいという人の心に点火し、会期終了後も様々な展開している。

選考理由 持続可能性への学びをコンセプトとして、30ものNPO、NGOが参加した。市民万博と称された愛・地球博を象徴するイベントの一つとなり、参加体験型のプログラムが話題を呼んで、多くの来場者を迎えた。閉幕後もコンセプトブックの刊行、1周年記念行事、シンポジウムなどが催され、さらに、上海万博につながる事が期待されている。

- イベント名称 2005年日本国際博覧会 日立グループ館
 受賞者 株式会社博報堂
 イベント概要 日立グループ館では、ユビキタス社会を実現するIT技術を活用して絶滅の危機に瀕する希少動物達を紹介。メインゾーンではこうした動物達を、世界初のMR (Mixed Reality) によるインタラクティブ 3Dライドによって再現。希少動物と来場者とのふれあい体験を通して、自然の大切さや素晴らしさを来館者に理解していただき、人間とすべての生き物が共存するための方向性を発信。
 選考理由 愛・地球博のテーマ「自然の叡智」を、世界最先端のIT技術と絶滅の危機に瀕する希少動物とのふれあいにより高度な次元で実現している。CGと現実を融合させるMR技術により未体験の新鮮な驚きを楽しめるエンターテイメント空間を創り出している。

- 受賞者 柏木千春 (JTB)、高橋一夫 (ティアド・ティ-株)、(岸野交通計画コンサルタント株)
 イベント名称 観桜期の吉野山における交通需要マネジメント
 イベント概要 観桜期の吉野山において、渋滞緩和や環境保全を目的に、観光バス駐車場の予約制、協力金の徴収等を実施した。その結果渋滞は劇的に解消、継続的な対策実施に見通しがついた。
 選考理由 多くの観光地が抱える交通問題を実践的に解決した。他の地域が抱える同様の問題の解決にすぐに応用できる取り組みである。京都大学から講義の要請が来ており、学術的にも成果を挙げている。

■ 最終審査委員

最終審査は以下の審査委員によって行われました。

(1) 審査委員長

中村 雅哉 : (株)日本イベント産業振興協会会長

(2) 大賞部門・最終審査委員

浅葉 克己 : アートディレクター

川村 治 : 株式会社テー・オー・ダブリュー代表取締役社長

桑田 政美 : 京都嵯峨芸術大学教授

田中 里沙 : 「宣伝会議」編集長

平野 暁臣 : 空間メディアプロデューサー/株式会社現代芸術研究所代表取締役

望月 照彦 : 多摩大学大学院教授

矢内 廣 : ぴあ株式会社代表取締役会長兼社長

(3) 制作賞部門・最終審査委員

大井 康祐 : 株式会社NHKインタープライズシア・イクゼクティブ・プロデューサー

小坂井 彰 : 株式会社博報堂事業プロデュース局局長代理

澤田 裕二 : 株式会社SD代表取締役社長

菅原 道郎 : 株式会社乃村工藝社執行役員CCカンパニー事業本部長

真木 勝次 : 株式会社テー・オー・ダブリュー取締役副社長

松添 茂夫 : 株式会社電通テック常務執行役員

間藤 芳樹 : 株式会社マッシュ代表取締役